



「お子様に関する特別調査」の概要

慶應義塾大学 パネルデータ設計・解析センター



この調査には、ご家庭でお答えいただく「親御様へのアンケート」と「お子様へのアンケート・テスト」が含まれます。



親御様へのアンケート：お子様の子育てや生活についてのご質問です。
お子様1人につき6ページ、所要時間は約10分です。



お子様へのアンケートとテスト：お子様の学習や生活についてのご質問と、
算数/数学・国語等のテスト問題が含まれます。所要時間は約20～30分です。



- * 調査の実施にあたっては、情報の管理を徹底いたします。特にお子様の調査票はシールで封印していただいた上で回収いたします。また、個人情報には調査会社のみで管理し、ご回答を分析する研究者には、個人が特定できないようにいたします。
- * お子様のテスト結果にご関心のある方は、インターネットを通して、テスト結果の概略（お子様の各教科の正答数と偏差値）をご覧いただけます（2014年秋以降、専用パスワードにて閲覧予定）。
- * 調査にご協力いただきました方（ご回答いただきました親御様とお子様全員）に、**薄謝（お一人当たり図書カード500円相当）**を用意いたしております。
さらに、ご協力いただきますお子様全員に**慶應マーク入り特製クリアフォルダー**を進呈いたします。



どうかできる限りのご協力をお願い申し上げます。



これまでの「お子様に関する特別調査」の結果より、いくつかのトピックをご紹介します。

1. 調査年、学年ごとの算数/数学、国語、推論テストの結果

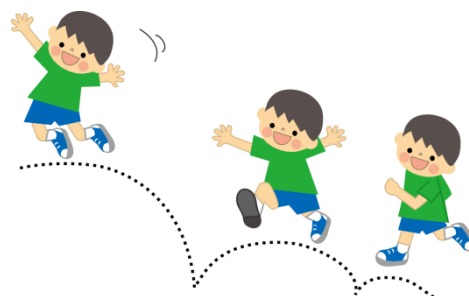
「お子様に関する特別調査」は、2010年より「日本家計パネル調査」と「慶應義塾家計パネル調査」にご協力いただいている対象者様の小中学生のお子様にご協力をお願いしております。

この調査の一つの大きな特徴として、お子様に取り組んでいただく、学力テスト（「算数・数学」、「国語」「推論」）があり、2010年から2013年まで同じ

テスト問題にご回答いただいています。

調査年ごとの各学年のテスト結果を下の表に示しました。どの学年、どの教科でも最小値・最大値・平均値・標準偏差の値は、年によってそれほど違いはなく、調査年の違いによる学力レベルの違いはみられないことが分かります。

学年	調査年	人数	算数・数学				国語				推論			
			最小値	最大値	平均値	標準偏差	最小値	最大値	平均値	標準偏差	最小値	最大値	平均値	標準偏差
小1	2010年	62	1	14	12.09	2.03	2	20	18.45	2.66	0	4	2.40	1.55
	2011年	58	7	14	12.41	1.65	7	20	18.19	2.64	0	4	2.67	1.33
	2012年	47	9	14	12.36	1.58	13	20	18.65	1.68	0	4	2.96	1.38
	2013年	57	7	14	12.72	1.53	7	20	18.14	2.42	0	4	2.54	1.45
小2	2010年	44	12	19	17.07	2.13	7	16	12.85	2.72	0	4	3.24	1.13
	2011年	72	11	19	16.99	2.16	5	16	12.92	2.73	0	4	2.76	1.28
	2012年	55	7	19	16.49	2.93	3	16	12.55	3.23	0	4	2.78	1.46
	2013年	82	4	19	16.38	2.85	0	16	11.83	3.80	0	4	2.94	1.30
小3	2010年	63	6	19	16.29	2.34	8	18	14.88	2.38	0	4	3.24	1.03
	2011年	90	6	19	16.22	2.50	5	18	15.06	2.87	0	4	3.14	1.20
	2012年	71	8	19	16.46	1.99	2	18	15.24	2.92	0	4	3.24	1.10
	2013年	72	9	19	16.07	2.05	7	18	15.39	2.43	0	4	3.24	1.16
小4	2010年	47	2	10	7.83	1.91	1	13	10.39	2.45	0	4	1.87	1.41
	2011年	75	1	10	7.59	2.08	5	13	10.16	2.23	0	4	2.29	1.58
	2012年	47	4	10	7.60	1.78	4	13	10.04	2.28	0	4	2.06	1.34
	2013年	81	3	10	7.57	1.63	7	13	10.88	1.74	0	4	2.04	1.48
小5	2010年	62	2	9	6.98	2.03	5	13	10.45	2.11	0	4	2.39	1.42
	2011年	74	0	9	6.18	2.60	0	13	9.92	2.71	0	4	2.55	1.39
	2012年	66	0	9	6.58	2.19	5	13	10.70	1.88	0	4	2.45	1.36
	2013年	89	1	9	7.06	1.95	3	13	11.08	1.82	0	4	2.44	1.36
小6	2010年	38	0	10	6.12	2.70	2	13	8.99	3.30	0	4	2.45	1.43
	2011年	83	0	10	6.80	2.24	0	13	9.80	3.11	0	4	2.58	1.30
	2012年	48	0	10	7.35	2.07	3	13	10.25	2.27	0	4	2.79	1.18
	2013年	87	2	10	7.07	2.22	3.5	13	10.38	2.47	0	4	2.83	1.33
中1	2010年	57	0	10	6.49	2.50	0	13	10.32	2.50	0	4	2.67	1.16
	2011年	67	1	10	6.43	2.32	3	13	9.37	2.48	0	4	2.48	1.24
	2012年	57	0	10	6.39	2.66	4	13	9.86	2.33	0	4	2.68	1.34
	2013年	82	0	10	6.67	2.53	4	13	10.07	2.56	0	4	2.73	1.24
中2	2010年	46	0	11	7.61	2.78	2	14	9.55	2.56	0	4	2.51	1.16
	2011年	84	0	11	6.94	3.55	0	15	9.53	2.98	0	4	2.52	1.10
	2012年	47	0	11	7.02	3.37	2	15	9.68	2.95	0	4	2.96	1.04
	2013年	83	0	11	7.58	3.06	4	15	9.92	2.86	0	4	2.65	1.26
中3	2010年	42	0	12	7.33	4.12	4	14	10.82	2.49	0	4	2.55	1.15
	2011年	56	0	12	7.70	3.60	5	15	11.03	2.24	0	4	2.66	1.21
	2012年	52	0	12	7.37	3.61	4	15	10.98	2.30	0	4	2.83	1.06
	2013年	73	0	12	7.88	3.60	3	15	11.26	2.29	0	4	2.60	1.26



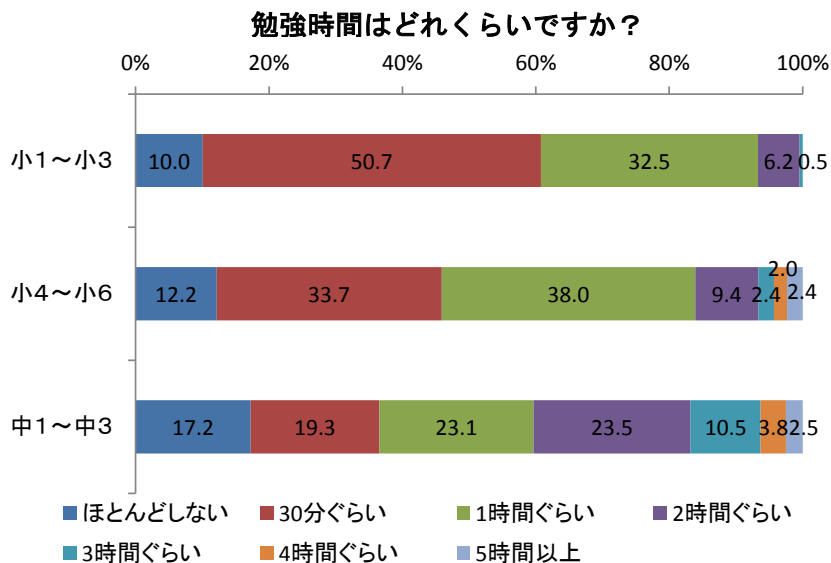
2. 学習環境によって勉強時間は変わる？

学年ごとの学習時間

「お子様に関する特別調査」では、親御様にお子様のふだんの日の学校以外での勉強時間（塾や家庭教師などの勉強時間も含める）を尋ねています。

下記の図は、3 学年ごとに「ほとんどしない」から「5 時間以上」までそれぞれの勉強時間の割合を示しています。小学校低学年（1 年生から 3 年生）では、ほぼ半数の子どもの勉強時間が 30 分ぐらい、

約 33%程度が 1 時間ぐらいです。小学校高学年（4 年生から 6 年生）では、1 時間以上の割合が増えています。さらに、中学生になると、2 時間以上も約 40%まで増えますが、ほとんど勉強しない子どもも 17%と増えており、学年が上がるほど、子どもによって勉強時間の個人差が顕著に現れてくること示されています。



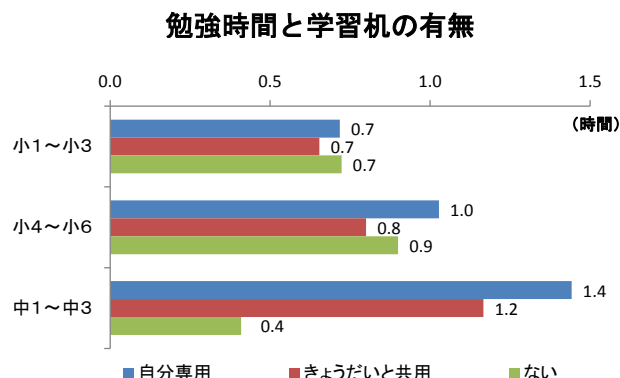
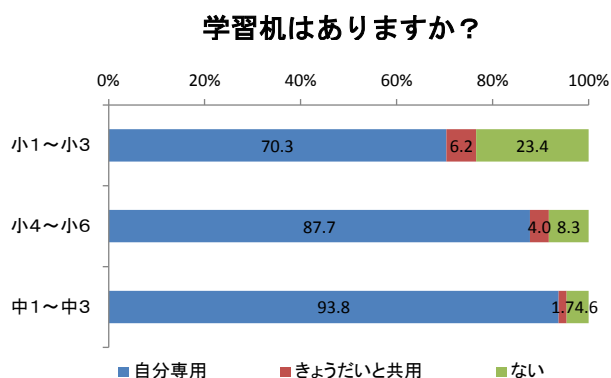
自分用の机と勉強時間

下の左図は、お子様が学習机を持っている割合を示したものです。小学校低学年でも 70%、小学校高学年では 88%、そして中学校では 94%と、学年が上がるにつれて自分専用の学習机を持つ割合は増える傾向にあるようです。

下の右図は、学習机を持つかどうか（「自分専用の机」、「きょうだいと共用」、「ない」の 3 つの選択肢）別に学習時間の平均を示したものです。学習時間は上記の「ふだんの日の学校以外での勉強時間」です。

「ほとんどしない」を「0」、「30 分ぐらい」を「0.5」、「1 時間ぐらい」を「1」というように時間に単位を直して平均値を計算しています。

小学校では、自分専用の机の有無による勉強時間の差はあまりないようです。しかし、中学校では、自分専用の机があるお子様とないお子様では、1 時間ぐらい勉強時間に差があります。中学生になると、自分専用の机は、勉強に活かされていると言えます。



3. 学校がある日の放課後の過ごし方は？

勉強以外に、放課後をお子様はどのように過ごされているのでしょうか。「お子様に関する特別調査」では、「学校がある日（月曜日～金曜日）どのように放課後を過ごしていたか」についてもお尋ねしています。調査をお願いしているお子様が小学校1年生から3年生でしたら親御様に、小学校4年生以上でしたらお子様ご本人にご回答いただいています。

下の上段左図は、「テレビ（DVD）を見る」時間を学年ごとに示しています。小学校5年生以上では平均市長時間が1時間を超え、学年が上がるにつれてテレビを見る時間が増えているようです。

上段右図は、「インターネットを見る」時間を学年ごとに示しています。テレビよりもより顕著に学年が上がるごとに時間が増えており、中学生では7割

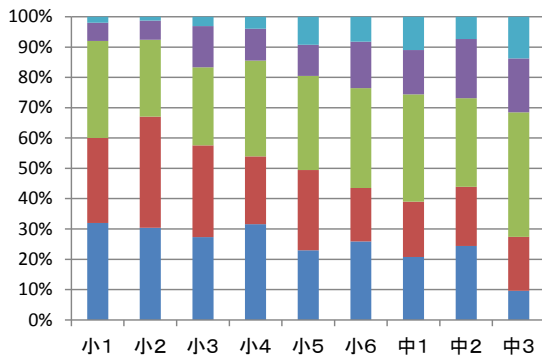
以上が30分以上インターネットに接しているようです。

ご家庭におけるパソコンやタブレット端末の普及に加え、携帯電話の所持率の上昇も影響していると考えられます。「お子様に関する特別調査」の結果でも6割以上の中学生が携帯電話を所持していました。

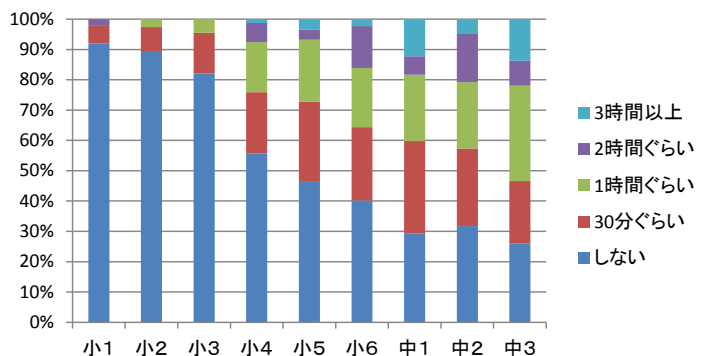
下段の図は、左が「ゲーム機で遊ぶ」、右が「スポーツをする」時間です。おおむね、ゲームは小学生が、スポーツは小学校高学年がよく行っているようですが、テレビやインターネットほど顕著に学年ごとの違いがなく、どの学年でもお子様の選好によって楽しまれているようにみえます。

学校がある日はどのように放課後を過ごしていますか？

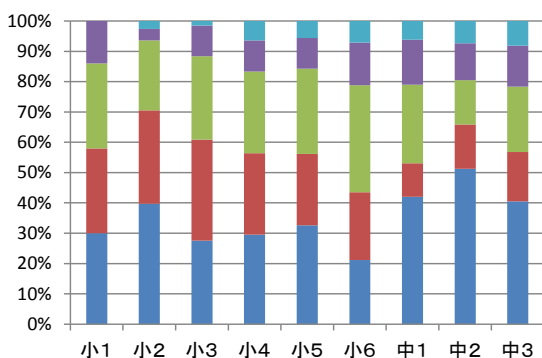
テレビ(DVD)を見る



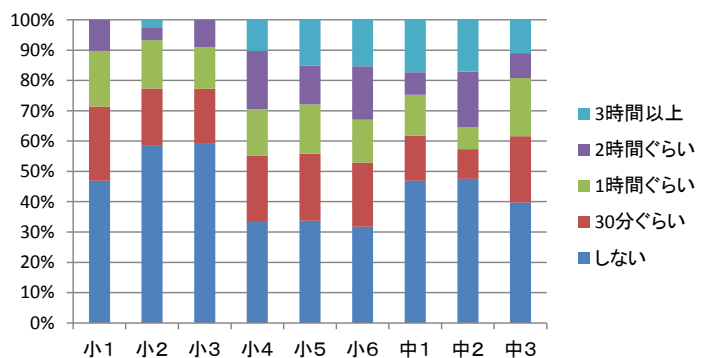
インターネットを見る



ゲーム機で遊ぶ



スポーツをする



4. ほめるときはどうする？

学校生活では良いことも悪いことも起こります。「お子様に関する特別調査」では、良いことが起こった時にどうするか、ということも親御様に尋ねています。

具体的には、「お子様が、努力をして学業やスポーツなどで良い成績をとったときはどのようにしましたか」という質問に、「言葉でほめる」、「頭をなでたり抱きしめたりする」、「お小遣いをあげる」、「特別な食事・プレゼントをする」、「テレビやゲームなどの楽しみの時間を増やす」、「特に何もしない」、「その他」から複数回答で選んでいただいています。下の図は、それぞれの回答の割合を示したものです。

この結果を見ると、「言葉でほめる」が最も多く、まずは声をかけることをほぼ全てのご家庭で行っているようです。さらに、「特別な食事・プレゼント」をしてお祝いすることも多いようです。「頭をなでたり抱きしめたりする」は、小学校低学年では8割近くのご家庭で行っているようですが、学年が上がるにつれて少なくなります。スキンシップの少ない日本の家庭をあらわしているようです。また、「お小遣い」や「テレビやゲームなど」は少なく、お金やゲームよりも、言葉や特別な食事・プレゼントを贈ってほめる傾向が見られました。

お子様が良い成績をとったときにはどのようにしましたか？

